

## 犬山のまちづくり 市民活動・地域活動インタビュー

Vol.2 特定非営利活動法人 シェイクハンズ  
代表理事 松本 里美さん



# ひとつの 価値観だけでは 決められない

犬山市の外国人市民数は、2,000年には1,247人だったのが、2,021年には約2倍の2,500人ほどとなっています。日本全体で人口が減少する中、今や外国人の方々の活躍は必要不可欠となっていますが、文化や言語の違いで困難を抱えている方々が大勢いるのも事実です。

普通の主婦からフェアトレードの普及活動を始め、今や多文化共生をミッションとするNPO法人の代表を務めるのが、松本里美さんです。

二頭のヤギが草を食む田園風景の中、昨年度から「高齢者支援×多文化共生」の事業として、外国にルーツを持つ住民が多く住む楽田地区で、コミュニティ農園の事業を開始されました。初夏の日差しを優しく遮る栗の木の木陰で、走り続ける松本さんに、お話を伺いました。

—松本さんは、協働のまちづくり基本条例の審議会委員も務めていただきましたが、「持続可能なまちづくり」について、どのようにお考えですか？

松本： 誰かによる意見の集約があって持続可能になるわけではなくて、最終的に目指すべきは「幸せな生活だな」と市民が感じる事であるとする、犬山では74,000通りあるかもしれません。SDGsにひとつだけ違和感があるとしたら、個々の多様性をどう担保していくのか、ということです。誰もが外せないところはあるじゃないですか。人と違うということも大事です。みんながみんな、一つの方向を向くというのは不自然さを感じてしまいます。

違うから離れていては進みませんが、違いを認め、違うアプローチを探っていくことが良いのではないのでしょうか？たくさんストレスもあると思いますが、本来きれいごとでは済まないことだと思います。意見の違いをぶつけ合うプロセスがあって、初めて気づくことって、やっぱり大事なことだと思います。

—そもそも多文化共生の活動の経緯は、どこからなのでしょう？

松本： 私の場合は、国際交流協会の国際理解のグループに入ったり、アフリカにピアノを送るためのチャリティーコンサートを行ったりしていました。そして、犬山駅付近にあったチャレンジショップをやらないかとお誘いを受け、フェアトレードの商品を扱いつつ、複数の団体で店を切り盛りしていました。売り上げはあまりありませんでしたが、みんなでいろんなものを持ち込んで、楽しかったですよ。

店でペルーのコーヒーを扱っていたのですが、たまたまペルー人の方が飲みに来てくれたんです。その方を通じて、外国にルーツを持つ子ども達の苦勞を知り、多くの外国人が住む楽田地区で、子ども向けの日本語教室ができないか、色々働きかけましたが、叶いませんでした。そのため、まだ何も勉強できていない状態でしたが、自分で始めることにしたんです。それからリーマンショックが来て、親も職を失い、今もやっている大人も含めた日曜教室も始めたんです。教室と言っても、一緒に履歴書を書く、とか。そんなぐらいでした。それが続いていき、今は抜けられなくなってしまって…(笑)

活動していく資金を稼ぐため、県のプロポーザルにチャレンジし、受託できました。途中から市の委託も受けられるようになり、そのおかげで犬山の多文化は守れたと思っています。また、市民活動助成金も貰っていましたが、制度の公平性の観点から、同じ団体がいつまでも受け続けてはダメだと思い、5年で受けるのを止めました。その後、他の民間助成金にもたくさんチャレンジし助成を受けましたが、犬山の市民活動助成金のプレゼン審査で鍛えられたおかげだと思っています。現状、犬山から外へ出ていく団体は少ないですが、全国的な助成金には、同規模の人脈や他団体との関わりも付いてくるので、犬山の団体がもっと外へ出て行ってくれるといいなと思います。

—松本さんが考える持続可能なまちづくりにおいて、市民活動が果たす役割はどういったことでしょうか？



松本： 私は気が付いたらというのが多くて、様々な活動をする中で、たくさんの方と出会い、知り合いになり、気づけば、知り合いのネットワークが出来ていたという感じがします。前から知ってはいたけど話したことがなかったり、方向性が合わなくてケンカ別れになることだっていくらでもあります。でも知ってさえいれば、何かアクションするときに声をかけてみようとか、「出会い直す」ことや「再びつながる」ことができます。そういったつながりがあれば、持続不可能にはならないというのが、私の考えです。なので、ペルーコーヒーは今も大切にしています(笑)

今はインターネットやSNSが普及し、情報公開もとても進んでいます。一方でいろんなものが多様化しており、人を集めにくいところもあるかもしれませんが、「つながり」をベースとして、人が集まることで「エネルギー」というものが生まれると思います。